

行雲流水

No.255 令和4年10月24日発行

「読書週間」とは

校長 寒河江 正人

周囲の山々、木々の紅葉が進み、秋の深まりを感じます。

秋は「〇〇の秋」と言われるように、いろんなことを楽しむのに適している季節。

「読書の秋」もその一つ。秋は、読書の似合う季節でもあります。

今週の木曜日、10月27日から11月9日までの2週間は「読書週間」です。

さて、この「読書週間」は、いつ、どのようにして始まったのでしょうか。

第1回「読書週間」が開催されたのは、終戦まもない1947年（昭和22年）のこと。

「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という志の下、出版社や書店、図書館などを中心に、新聞社や放送局なども協力して行われました。

期間は、11月17日から23日までの1週間だったそうです。

当時、アメリカでは、11月16日から1週間、子どもたちに本に親しんでもらう運動として、「チルドレンズ・ブック・ウィーク」が開催されていました。

日本の「読書週間」の時期は、この「チルドレンズ・ブック・ウィーク」を参考にしたのでそうです。

この第1回の「読書週間」が大反響を呼び、翌1948年（昭和23年）の第2回からは、期間を延ばして開催されるようになりました。

11月3日の「文化の日」を中心とした10月27日から11月9日までの2週間として、この開催期間は、74年間の年月を経過した今に至るまで変わっていません。

本校の校内、生徒昇降口のホールや図書室前の特設コーナーなどには、「読書週間」に向け、「先生たちのおすすめ本の紹介」や「家族読書」が紹介されています。

先日は、生徒会図書委員会による「各クラスでの絵本読み聞かせ」も行われました。

過ごしやすい秋のひとつ、今は、読書にふさわしい季節です。

読書を通して、自分と向き合い、自分を見つめるのにいい季節です。

ほんのちょっと、心にゆとりをつくって、静かに、穏やかに、本を読んでみましょう。